

れいわ ねんど とうしょよさん あん きしゃかいけん  
令和7年度当初予算(案) 記者会見

にちじ れいわ ねん がつ にちすい  
日時：令和7年2月12日(水)11:15～

ばしよ しやくしよほんちようしゃ かい ちようぎしつ  
場所：市役所本庁舎3階 庁議室

ほんじつ れいわ ねんどとうしょよさん おも じゅうてんじぎょう  
本日は、令和7年度当初予算の主な重点事業について、

せつめい  
ご説明させていただきます。

てもと はいふ よこ ず れいわ ねんど  
お手元に配布させていただいた A4横・カラー刷りの「令和7年度

とうしょよさん じゅうてんじぎょう か しりょうもち せつめい  
当初予算 重点事業」と書かれた資料を用いてご説明いたします。

よさん きぼ ひょうし した きさい  
予算規模につきましては、表紙のタイトル下に記載のありますとお

り、346億4,000万円となっており、これは過去最大の予算

きぼ  
規模となります。

しりょう ひら  
それでは、資料をおめくりいただいて、1ページをお開きください。

なんかい きよだいじしん そな ぼうさいりよくきょう か じぎょう  
まずはじめに、「南海トラフ巨大地震に備える防災力強化事業」

についてであります。

きんねん さいがい げきじんか ひんぱつか ちょうきか  
近年の災害は、激甚化、頻発化、長期化しており、

なんかい じしん はっせい か のうせい たか じょうきょう  
南海トラフ地震の発生可能性も高まっている状況です。

ほんし たすう ひなんしゃ はっせい そうてい ひなんじょ  
本市では多数の避難者の発生が想定されており、避難所QOLの

こうじょう じゅうよう  
向上が重要です。

ひなんじょ もんだい かいけつ せつび さいがい  
避難所におけるトイレ問題を解決するためのトイレ設備、災害

かんれんし よぼう し おくないうんどうじょう くうちょうせつび せいび だん  
関連死の予防に資する屋内運動場の空調設備の整備、段ボールベ

ッド、パーテーション等の備蓄、断水時の生活用水確保策としての

ぼうさい い ど せいび おこな  
防災井戸の整備を行います。

そしてフェーズフリーの考え方に基<sup>かんが</sup>づき、<sup>かた</sup>平時には<sup>もと</sup>避難所開設<sup>へいじ</sup>・<sup>ひなんじょかいせつ</sup>

うんえいくれんとう つう しきざいしよう しゅうじゅく はか  
運営訓練等を通じて、資機材使用の習熟を図ります。

まずは、「<sup>ちゅうがっこうおくないうんどうじょうくうちょうせつびせいびじぎょう</sup>中学校屋内運動場空調設備整備事業」についてであります。

さいがいじ ひなんじょ おお ひなんしゃ う い  
災害時に避難所としても、多くの避難者を受け入れることとなる

ちゅうがっこう おくないうんどうじょう さいがい つよ い  
中学校の屋内運動場に、災害に強いと言われているGHP（ガス

ほうしき くうちょうせつび けいかくてき どうにゆう  
ヒートポンプ）方式の空調設備を計画的に導入していきます。

れいわ ねんど おおあさちゅうがっこうおくないうんどうじょう せっちこうじ へいこう  
令和7年度は、大麻中学校屋内運動場への設置工事と並行して、

せ と ちゅうがっこうおくない うんどうじょう せっち む こうじ せっけい すす  
瀬戸中学校屋内運動場への設置に向けた工事設計を進め、

ひなんじょ きのうきょうか じゅうじつ はか  
避難所の機能強化・充実を図ります。

つぎ だん はいび  
次に、「段ボールベッド・パーティションの配備」についてであります。

し ぶ しせつとう おも かんい お たた しき  
これまで、支部の施設等には主に簡易ベッド（折り畳み式ベッド）

はいび すす こうじょう し かんが  
の配備を進めてきましたが、よりQOL向上に資すると考えられる

だん はいび  
段ボールベッドとパーティションを配備します。

せっちじぎょう  
次に、「マンホールトイレ設置事業」についてであります。

の と はんとうじしん はいせつご しより しゅうきたいさく  
能登半島地震では、排泄後の処理や臭気対策などが

かだい  
課題となりました。

くに からの プッシュ型 支援 として、 仮設 トイレ もありますが、 到着 まで  
に 時間 を 要 することや、 便器 の 下 に 便槽 を 備 えているため 段差 があ  
り、 要配慮者 の 方 には 使 い に くい こと、 し尿 処理 が 必要 であることなど  
から、 被災地外 から 調達 することなく、 迅速 に 組み立て が でき、 水洗  
トイレ に 近い 環境 を 確保 できる「マンホールトイレ」の 設置 を 段階的に  
おこな  
行 っています。

つぎ  
次に、「災害時協力井戸登録推進事業」についてであります。

断水 時 における 生活用水 の 確保 のため、 民間 及び 個人 が 所有す  
る 井戸 に対して「鳴門市災害時協力井戸登録制度」を開始して  
お  
り、 登録 された 井戸 に対しての 周知・啓発 のための 登録表示版 の  
設置 や 水質検査、 手押しポンプ の 設置 などの 整備 を 行 います。

つぎ  
次に、「スターリンク整備事業」についてであります。

だいき ぼさいがいはっせいじ つうしんとぜつ さいがいたいおう おく とう しょう  
大規模災害発生時に通信途絶による災害対応に遅れ等が生じ

さいがいたいおう おうきゅうふっきゅうさぎょうとう ひつよう ふ かけつ つうしんもう  
ないよう、災害対応や応急復旧作業等に必要不可欠となる通信網

かくほさく かんきょう さ ゆう こうそく りよう  
の確保策としてエリア・環境に左右されず高速インターネットを利用す

せいび えんかつ さいがいたいおうたいせい こうちく  
きるスターリンクを整備し、円滑な災害対応体制を構築します。

つぎ  
次に、「防災訓練等の充実」についてであります。

ひさいち まな じっせん そく けんしゅう くんれん てきかく  
「被災地から学び実践に即した研修・訓練」をテーマに、的確かつ

えんかつ さいがいたいおう じっし ひさいち かつどうけいけん ほうふ  
円滑に災害対応を実施できるよう、被災地での活動経験が豊富な

だんたいとう こうしはけん う じっせんてき くんれん おこな  
団体等から講師派遣を受け、実践的な訓練を行います。

ぐたいてき ぜんしょくいん てきかく えんかつ さいがいたいおう  
具体的には、全職員が的確かつ円滑に災害対応ができるよう、

じっせんてき さいがいたいさくほんぶずじょうくんれん ひさいち かだい だんじょきょうどう  
実践的な災害対策本部図上訓練や、被災地の課題や男女共同

さんかくとうたようしてんと い じゅうみんしゅたい ひなんじょかいせつ うんえい  
参画等多様な視点を取り入れた住民主体の避難所開設・運営

くんれんとう じっし  
訓練等を実施します。

さいご  
最後に、「トイレトラック整備事業」についてであります。

さいがいはっせいじ ていでん だんすい もんだい だっすい  
災害発生時の停電・断水におけるトイレ問題は、脱水や

かんせんしょうよぼう しょうこうぐん さいがいかんれんし  
感染症予防、エコノミッククラス症候群などの災害関連死につながる

おそれがあるため、さいがいじ かくほ せいび  
おそれがあるため、災害時のトイレ確保のため、トイレトラックを整備します。

つづ  
続きまして、「なると まるごと こそだ おうえん じぎょう  
子育て応援パッケージ事業」について

せつめい  
ご説明いたします。

ほんし けんないずいいち こそだ おうえん とし めざ れいわ ねんど  
本市が県内随一の子育て応援都市を目指して、令和4年度から

スタートした「なると まるごと こそだ おうえん じぎょう  
子育て応援パッケージ」も、令和7年度を

さいしゅうねんど むか  
もって最終年度を迎えます。

でも、であいからけっこん しんせいかつ にんしん しゅっさん こそだ  
これまでも、出会いから結婚、新生活、妊娠、出産、子育て、

じゅうたくしゅとく かく こそだ せだい きょうりよく しえん さまざま  
住宅取得の各ライフステージの子育て世代を強力に支援する様々な

じぎょう じっし さいしゅうねんど れいわ ねんど あら  
事業を実施してまいりましたが、最終年度である令和7年度も、新

とりくみ くわ ないよう しんか  
たな取組を加えるなど、内容を進化させています。

よさん そうがく ぜんねんどとうしょよさん やく  
予算総額については、前年度当初予算から、約3,300

まんえんぞう おく まん せんえん  
万円増の、3億8,306万2千円となっており、「なると まるごと

こそだ おうえん ねんかん しゅうたいせい いじょう  
子育て応援パッケージ」の4年間の集大成として、これまで以上に

こそだ しえんじぎょう すいしん こそだ せだい ていじゅうじんこう かくほ  
子育て支援事業を推進することで、子育て世代の定住人口の確保

つな  
に繋げてまいります。

ほんじぎょう れいわ ねんどしんきじぎょうおよ かくじゅうないよう  
これより、本事業の令和7年度新規事業及び拡充内容について

せつめい  
説明いたします。

はじめに、出会いに関する事業についてであります。

令和6年度に、「出会い」に焦点を当てた結婚支援アイデアコンテ

ストを実施し、アイデアを広く募集したところ、県内外より合計62件

の応募がありました。

コンテストで受賞したアイデアをベースに、一時的な婚活イベントで

はない、男女の繋がりや出会いの場を恒常的に提供することを目的

に、「一期一縁（いちごいちえん）プロジェクト」を実施します。

「一期一縁」とは、「出会いを一つの縁にしていく」という意味であり、

具体的には、受賞者のうち、スタートアップ企業の(株)e-lamp.（イー

ランプ）がアイデアコンテストを契機に大道商店街にある「うずコワー

ク」にサテライトオフィスを開設し、アイデアコンテストで生まれた

各受賞者との縁を活かしながら、市内事業者などと連携を図り、コン

テストで受賞したアイデアの実現をはじめ、男女の繋がりや出会いの

創出、趣味などをテーマにしたコミュニティづくりに関する事業を実施し

ます。

「鳴門のまちなかに若い男女が集まる」ことで好循環を生み出し、

男女の出会いの場の恒常的な提供や「まち」の活性化を目指します。

次に、妊娠・出産に関する事業として、「不妊治療費助成事業」

についてであります。

令和4年4月から、人工授精等の「一般不妊治療」、体外受精・

顕微授精等の「生殖補助医療」が、保険適用となりました。

このことにより、不妊治療の社会的理解が一層進み、治療を

希望する方が年々増加していると考えています。

県内随一の子育て応援都市を目指す本市としては、これまで

保険適用後の更なる助成事業として、全国的にも取り組みの

すく いっぱんふにんちりょう ねんい ない ちりょうひ ぜんがくじよせい  
少ない、一般不妊治療の1年以内の治療費の全額助成や

ほけんてきょうご ふたんがく おお せいしよくほじょいりょう たい かい  
保険適用後も負担額が大きい生殖補助医療に対して1回あたり

じょうげん まんえん じよせい  
上限10万円を助成してきました。

こんかい さらに そうき ちりょうかいし ちりょうひ むしょうか めざ  
今回、更なる早期の治療開始と治療費の無償化を目指し、

せいしよくほじょいりょう たい じよせいじょうげんがく まんえん かくじゅう  
生殖補助医療に対する助成上限額を30万円に拡充します。

ほけんしんりょう あわ じっし せんしん いりょう ひょう  
また、保険診療と併せて実施した「先進医療にかかる費用」に

せいしよくほじょいりょう じよせいじょうげんがく まんえん はんい  
ついても、生殖補助医療の助成上限額30万円の範囲において、

けんないはつ じよせいたいしゅう いた  
県内初として、助成対象にすることと致しました。

とうがいじよせい こ のぞ ふうふ けいざいてきふたん けいげん  
当該助成により、子どもを望む夫婦の経済的負担の軽減は

せいしんてきふたん けいげん  
もとより、精神的負担の軽減につながってまいります。

つぎ しゅうがくまえ かん じぎょう ほいくしじんざいかくほすいしんじぎょう  
次に、就学前に関する事業として、保育士人材確保推進事業の

しょうがくきんへんかんじよせいじぎょう  
うち「奨学金返還助成事業」についてであります。

ほんし しりつほいくしせつ きんむ ほいくしとう たいしゅう  
本市では、私立保育施設に勤務する保育士等を対象に

しゅうろうし えんきんとう きゅうふ おこな かくほいくしせつ じんざいかくほ すいしん  
就労支援金等の給付を行い、各保育施設の人材確保の推進に

とく  
取り組んでまいりました。

しかしながら、近年の保育ニーズの多様化や、国における保育士の

はいちきじゅん みなお かくほいくしせつ いっそう じんざいかくほ  
配置基準の見直しなど、各保育施設では、より一層の人材確保が

もと  
求められています。

このことから、市としてもこれまでの事業を拡充することとし、新た

ほいくしとう しょうがくきん へんかんひょう じよせい げつがく まんえん じょうげん  
に、保育士等の奨学金の返還費用の助成を、月額1万円を上限

しけんてき じっし  
に試験的に実施することといたしました。

ほいくしとう りしよく よくせい しかく も たぎょうしゅ せんたく  
保育士等の離職の抑制や、資格を持ちながらも、他業種を選択

されている、いわゆる潜在保育士の復帰支援に繋がってまいりたいと考

ております。

つぎ こうこうせい かん じぎょう こうこうせいじゅぎょうりょうじよせいじぎょう  
次に、高校生に関する事業として、「高校生授業料助成事業」に

ついてであります。

ほんし　こそだ　せたい　たいしょう　おこな　こそだ　しえん　かん  
本市の子育て世帯を対象に行った子育て支援に関するアンケートで

は、55%の<sup>こそだ　せたい</sup>子育て世帯が、<sup>ざいせいしえん　もつと　ひつよう　かんが</sup>財政支援が最も必要と考えるのは、

<sup>ぎ　む　きょういくしゅうりょうご　こうとうがっこうとうつうがくじ　かいとう</sup>  
「義務教育終了後から高等学校等通学時」であると回答しています。

そこで、<sup>くに　こうとうがっこうとうしゅうがくしえんじぎょう　せたいしゅうにゅうきじゆん　こ</sup>国の高等学校等就学支援事業の世帯収入基準を超え

たことにより、<sup>とうがいせいど　たいしょうがい　こうこうせい　こそだ　せたい</sup>当該制度の対象外となった高校生のいる子育て世帯に

<sup>たい　し　どくじ　こうこうじゅぎょうりょうそうとうぶん　げつがく　えん</sup>  
対し、市独自に、高校授業料相当分として月額9,900円の

<sup>じよせい　おこな　きょういくきかい　きんとう　はか　じゃくねんそうじんこう</sup>  
助成を行うことで、教育機会の均等を図るとともに、若年層人口の

<sup>ていじゅう　めざ</sup>  
定住を目指します。

<sup>つづ　こ　がくりよくこうじょう　じぎょう</sup>  
続きまして、ここからは「なるとうずっ子 学力向上パッケージ事業」

<sup>せつめい</sup>  
について、ご説明いたします。

「なるとうずっ子 <sup>こ　がくりよくこうじょう　じぎょう　しゅうがくまえ</sup> 学力向上パッケージ事業」は、就学前から

<sup>ちゅうがっこうそつぎょう　なるとしどくじ　とくしよく　きょういく　じっし　こ</sup>  
中学校卒業まで、鳴門市独自の特色ある教育を実施し、子どもたち

ひとりひとり むげん かのうせい の もくてき れいわ ねんど  
一人一人の無限の可能性を伸ばすことを目的に、令和5年度から  
スタートいたしました。

れいわ ねんど こう じっし じぎょう こう かけんしょう  
令和6年度は、モデル校にて実施した2事業について、効果検証  
を踏まえ、全校実施に拡充するほか、理数と英語に特化した新たな  
2つの事業を開始するなど、事業の拡充を図り、未来を生きる子ども  
たちの確かな学力向上の取組みを推進しています。

れいわ ねんど こ がくりよくこうじょう  
さらに令和7年度からは、「なるとうずっ子学力向上パッケージ  
plus事業」として新たに高校生を対象とした新規事業を展開し、  
なると そだ こ しえん  
鳴門で育ちゆく子どもを支援します。

ほんじぎょう じぎょうないよう せつめい  
これより、本事業の事業内容について説明いたします。

がくりよくこうじょうすいしん はけんじぎょう  
まず、「学力向上推進アドバイザー派遣事業」についてであります。

げんざい がっこうげんば けいけんほうふ きょうしよくいん たいりょうたいしよく きゅうげき  
現在、学校現場は経験豊富な教職員の大量退職により急激に

わかがえ がくしゅうし どう がっきゅうけいえい こ かた  
若返りをしており、学習指導や学級経営、子どもとのかかわり方に

ふ あん いだ わか て きょうしよくいん ふ  
不安を抱く若手教職員が増えています。

な る と し がくりよくこうじょうすいしん けいけんほうふ  
そこで、鳴門市学力向上推進アドバイザーとして、経験豊富な

たいしよくきょうしよくいん なるとし ない しょうがっこう はいち わかてきょうしよくいん ちゅうしん  
退職教職員を鳴門市内の小学校に配置し、若手教職員を中心に

し どう じょげん おこな  
指導・助言を行います。

わ か て きょうしよくいん じゅぎょうりよく こうじょう がっきゅうけいえい えん かつ か  
これにより若手教職員の授業力の向上や学級経営の円滑化を

はか きょういくかつどう じゅうじつ がくりよくこうじょう つと  
図り、教育活動の充実と学力向上に努めてまいります。

つぎ なるとり すうじゅくかいこうじぎょう かくじゅう  
次に「鳴門理数塾開校事業（拡充）」についてであります。

なるときょういくだいがく きょうりよく ちゅうがくせい つき かにていど りすうぶんや  
鳴門教育大学の協力により、中学生が月1回程度、理数分野に

とっか きょういく う きかい もう りすうがくしゅう  
特化した教育を受けられる機会を設け、理数学習へのモチベーション

たか りすう とくい せいと のうりよく の もくてき なると  
を高め、理数が得意な生徒の能力をさらに伸ばすことを目的に鳴門

りすうじゅく かいこう  
理数塾を開講します。

らいねんど なるとりすうじゅく さんかしゃ たい すうがくけんていじゅけんりょう  
来年度は鳴門理数塾の参加者に対し、数学検定受験料を

じょせい すうがくけんていごうかく めざ りけいぶんや ちから  
助成し、数学検定合格を目指すことで、さらに理系分野の力を

の いちじょ かんが  
伸ばす一助としたいと考えています。

つぎ とうじゅぎょうりょうほじょじぎょう  
次に、「フリースクール等授業料補助事業」についてであります。

ほんし ふとうこうじどうせいと ねんねんぞうか けいこう じどうせいと  
本市の不登校児童生徒は年々増加傾向にあり、児童生徒

ひとりひとり じょうきょう よそ しえん いそ  
一人一人の状況に寄り添った支援が急がれているところです。

ふとうこうじどうせいと たよう まな ば かくほ しゃかいてきじりつ む  
不登校児童生徒の多様な学びの場を確保し、社会的自立に向

しえん もくてき とう みんかんしせつ りょう さい  
けた支援を目的として、フリースクール等の民間施設を利用した際に

ひつよう けいひ たい じょせい おこな  
必要となる経費に対する助成を行います。

つぎ なるとうこうとうがっこうしょうがくきんきゅうふじぎょう  
次に、「鳴門高等学校奨学金給付事業」についてであります。

れいわ ねん がつ しょうらいきょういん めざ せいと  
令和7年4月から、将来教員になることを目指す生徒のために、

とくしまけんりつ なるとうこうとうがっこう きょうしよくとくべつこうざ  
徳島県立鳴門高等学校に「教職特別講座（エデュケーションプログラム）」

かいせつ ともな しょうらい きょういん なるとうこうとう  
が開設されることに伴い、将来、教員になることをめざし、鳴門高校の

きょうしよくとくべつこうざ じゅこう がくぎょうゆうしゅう しない せいと しょうがくきゅうふきん  
「教職特別講座」を受講する学業優秀な市内の生徒に奨学給付金

まいつき まんえん きゅうふ  
として毎月2万円を給付します。

なるとこうこう がくぎょうゆうしゅう にゆうがくご いよくてき まな つづ  
これにより鳴門高校に学業優秀で入学後も意欲的に学び続ける

せいと かくほ つと なるとこうこう みりよくか とくしよくか およ  
生徒の確保に努めるとともに、鳴門高校の魅力化・特色化、及び

ちいきかっせいか しほんし かぎ しえん つと  
地域活性化に資するよう、本市としてもできる限りの支援に努めてま

いります。

つぎ こうこうせいえいけんじゅけんりょうぜんがくほ じょじぎょう  
次に、「高校生英検受験料全額補助事業」についてであります。

れいわ ねんど しないちゅうがくせい たいしょう えいけんじゅけんりょう ぜんがくほ じょ  
令和5年度より市内中学生を対象に英検受験料の全額補助

じぎょう かいし じゅけんしゃすう ごうかくしゃすう とうしょ そうてい うわまわ せいか  
事業を開始し、受験者数・合格者数とも当初の想定を上回る成果

をあげています。

じょせい たいしょうはんい なるとしな いざいじゅう しな いこうとうがっこう  
このことから、助成の対象範囲を鳴門市内在住で市内高等学校に

かよ こうこうせい かくじゅう せいと じゅん きゅう い じょう えいけん じゅけん さい  
通う高校生へ拡充し、生徒が準2級以上の英検を受験する際の

じゅけんりょう ぜんがくほ じょ えいごりよくこうじょう しかくしゅとく めざ  
受験料を全額補助することで、英語力向上・資格取得を目指すこと

じもとこうこう みりよくか とくしよくか はか  
もに地元高校の魅力化・特色化を図ります。

つづきまして、ここからは「豊かな人を育むまちづくり」に資する事業に

ついて、ご説明させていただきます。

まずは、「スポーツ施設整備事業」についてであります。全体の

予算額は4, 300万円となっております。

内訳については、まず、「新スポーツ施設の基本計画策定業務」が

3, 300万円となっております。

この内容としましては、体育館と屋内温水プールを兼ね備えた

新しいスポーツ施設の建設に向けて、「鳴門市新スポーツ施設基本

構想」を踏まえ、より具体的な内容を示した基本計画を策定します。

次に、「衛生センターグラウンド利用環境改善事業」が1, 00

0万円となっております。

かんが かた と い へいじ しせつりようしゃ かつよう  
フェーズフリーの考え方を取り入れ、平時は施設利用者が活用し、

さいがいはっせいじ ひなんしゃ あめ やねつ かんらんせき  
災害発生時は避難者が雨をしのぐことができる、屋根付き観覧席と

およ ぼうさいそうこ いったい しせつ せつけい と く しせつ  
トイレ及び防災倉庫が一体となった施設の設計に取り組み、施設の

り べんせいこうじょうおよ ち いきぼうさいりよく きょうか はか  
利便性向上及び地域防災力の強化を図ります。

つぎ ぶんかいかんたいしんかいしゅうじぎょう  
次に、「文化会館耐震改修事業」についてであります。

ぶんかいかん たいしんせいのう み じしん とうかい  
文化会館は耐震性能を満たしておらず、地震による倒壊の

かのうせい れいわ ねん がつ きゅうかん  
可能性があることから令和3年4月より休館しております。

さくねん がつ じっしせつけい せこういっかつはっちゅう けいやく おおばやしぐみ  
昨年、11月に実施設計・施工一括発注による契約を大林組・

いのうえけんせつ かめいぐみ こうやまけんちくけんきゅうしょとくていけんせつこうじきょうどうきぎょうたい  
井上建設・亀井組・香山建築研究所特定建設工事共同企業体と

ていけつ げんざい じっしせつけい すす  
締結し、現在、実施設計を進めているところです。

ひ つづ きょうとだいがく きょうりよく りようしゃ してん  
引き続き、京都大学などとも協力しながら、利用者の視点に

た さまざま くふう きのう こうじょう せだい ぶんか こ こうりゅう  
立った様々な工夫や機能の向上、世代や文化を超えた交流が

そくしん ば さいせい めざ じぎょう と く  
促進される場としての再生を目指し、事業に取り組んでまいります。

なお、今後のスケジュールは、本年 8 月に実施設計が完了し、

れいわ ねん ど ねん ど かいしゅうこうじ へ れいわ ねん がつ  
令和 7 年度から 8 年度での改修工事を経て、令和 9 年 2 月に

こうじ しゅんこう よてい  
工事は竣工する予定です。

しゅんこうご かいかんじゅんびとう やく げつかんおこな れいわ ねん がつ  
竣工後、開館準備等を約 3 カ月間行い、令和 9 年 6 月の

めざ  
グランドオープンを目指します。

つぎ ぶん か かい かん さい かい じゅん び じぎょう  
次に、「文化会館再開準備事業」についてであります。

ぶん か かい かん きゅうかんい ぜん してい かんりしゃ しせつ かんりうんえい  
文化会館は休館以前、指定管理者による施設の管理運営を

おこな れいわ ねん がつ しせつ さい かい ごと してい かんりしゃ  
行っており、令和 9 年 6 月の施設再開後においても、指定管理者

せいど どうにゆう みんかんじぎょうしゃ とくい ぶん や とう  
制度を導入し、民間事業者のノウハウやアイデア、得意分野等を

かつよう こうりつてき しせつ かんり よ ていきょう  
活用することで、効率的な施設管理や、より良いサービスを提供して

いくこととしています。

しせつ さい かい まえ こうじ き じゅん び き してい かんり  
そのうえで、施設再開前の工事期、準備期においても指定管理

こうほ しゃ みんかんじぎょうしゃ さんにゆう  
「候補」者として、民間事業者にプロジェクトに参入していただき、その

けいけん い うんえいしゃ め せん こうかてき しせつせいび えんかつ しせつ  
経験を活かした運営者目線による効果的な施設整備、円滑な施設

さいかい め ざ  
再開を目指すこととしています。

しざいひ じんけんひ こうとう なか ざいげんかくほ  
また、資材費や人件費などが高騰する中、財源確保のため、ふる

のうぜい かつよう  
さと納税を活用したガバメントクラウドファンディングを実施します。

つぎ まんにん かいさいじぎょう  
次に、『「100万人のクラシックライブ」開催事業』について

であります。

しな い みぢか ばしょ きがる おんがく なまえんそう ふ  
市内の身近な場所で、気軽にクラシック音楽の生演奏に触れるこ

きかい そうしゅつ まんにん かいさい  
とができる機会を創出するため、「100万人のクラシックライブ」を開催

します。

きぞん ししゅさいじぎょう ちゅうしん しみんだんたい とう  
既存の市主催事業を中心に、市民団体のイベント等において、

ていきてき じっし よてい  
定期的な実施を予定しています。

ふだん おんがく き きかい かた おんがく  
普段、クラシック音楽を聴く機会のない方にも、クラシック音楽の

なまえんそう みりょく かん おんがく つう ひと ひと  
生演奏の魅力を感じていただき、「音楽を通じて人と人がつながる」

「日常に音楽があふれる」地域となることを目指します。

続きまして、「持続発展可能なまちづくり」に資する事業として、

「再生可能エネルギー設備等普及促進事業補助金」についてで

あります。

地球温暖化対策の推進及び脱炭素社会の形成を図るとともに、

災害に強いフェーズフリーなまちづくりを実現するため、「住宅用

太陽光発電システム」や「家庭用蓄電池システム」、「電気自動車等

充給電設備(V2H)」を設置される方に対する補助制度を創設しま

す。

補助額はそれぞれ資料に記載のとおりで、最大で30万円まで

交付します。

本年3月に策定予定の地球温暖化対策実行計画（区域

し さ く へ ん か か ね ん じ つ げ ん む さ い せ い  
施策編) に掲げる 2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、再生

か の う どう に ゆ う そ く し ん  
可能エネルギーの導入を促進してまいります。

つ づ だ れ け ん こ う く  
続きまして、「誰もが健康でいきいきと暮らせるまちづくり」に

し じ ぎ ょ う せ つ め い  
資する事業について、ご説明させていただきます。

こ う れ い し ゃ む じ ぎ ょ う  
まずは、「高齢者向けセーフティドライバー事業」についてであります。

こ う れ い し ゃ か た あ ん ぜん う ん て ん さ い い じ ょ う こ う れ い し ゃ  
高齢者の方が、安全に運転ができるよう65歳以上の高齢者を

たい し ょ う う ん て ん の う り よ く か ん た い り よ く そ く て い に ん ち き の う う ん て ん ぎ の う  
対象とした運転能力に関する体力測定、認知機能、運転技能の

け ん さ せ ん も ん し ょ く た い そ う し ど う お こ な き ょ う し つ  
検査や、リハビリテーション専門職による体操指導を行う教室を

か い さ い  
開催します。

げ ん ざ い う ん て ん ぎ の う と う さ い か く に ん お こ な  
現在の運転技能等を再確認するきっかけづくりを行うとともに、

う ん て ん ひ つ よ う た い り よ く ぎ の う こ う じ ょ う は か こ う れ い し ゃ か た  
運転に必要な体力や技能向上を図ることにより、高齢者の方が

な が あ ん ぜん う ん て ん し え ん  
長く安全運転ができるよう支援してまいります。

つ ぎ か い ご よ ぼ う す い し ん じ ぎ ょ う  
次に、「介護予防DX推進事業」についてであります。

れいわ ねんど じっし ほんじぎょう ぶんせき  
令和4年度より実施している本事業のデータ分析により、いきいき

かいごよぼうじぎょう さんか かと さんか  
サロンなどの介護予防事業へ参加されている方は、参加されていない

かた くら やく さい けんこう ねんかん ひつよう いりょうひ  
方に比べ、約2.7歳、健康であり、年間に必要となる医療費・

かいごひ やく まんえんすく かいごよぼうじぎょう こうか あき  
介護費も約30万円少ないといった、介護予防事業の効果が明らか

かとなっております。

じぎょうこうか たか れいわ ねんど  
こうしたことから、より事業効果を高めるため、令和7年度において

たよう おう うんどう しゅみかつどう こうりゅう きょうしつ かいさい  
も、多様なニーズに応じた運動、趣味活動・交流などの教室を開催

いたします。

にんちしょう こっせつ しんきようかいごにんてい おお じょうきよう ふ  
さらに、認知症や骨折による新規要介護認定が多い状況を踏ま

にんちきのう いじ こうじょう つな こっせつ じょうきよう ばしょ  
え、認知機能の維持、向上に繋がるアプリや、骨折した状況、場所

ぶんせき きけん ばしょ おし  
などを分析し、危険のある場所をスマホのカメラをかざすだけで教えてく

かいはつ こうれいしゃ けんこう いじ かいぜん はか  
れるアプリを開発し、高齢者の健康の維持・改善を図るとともに、

かんきょうよういん ぶんせき すす けんこうじゅみよう えんしん めざ  
環境要因の分析を進めることにより、健康寿命の延伸を目指してま

いります。

次に、「ち い ききょうせい地域共生センター（かしょう仮称）せいびじぎょう整備事業」について

であります。

しんちようしゃせいび新庁舎整備に伴いともな空きスペースのあ生じたしょう旧分庁舎について、

ゆうこうりよう有効利用を図るため、げんざい現在、かいしゅうこうじ改修工事にちやくしゆ着手しております。

かいしゅうご改修後は、「なるとししんたいしょうがいしゃかいかん鳴門市身体障害者会館」及びしょう障がいのかたある方などを

たいしょう対象としたそうごうてき総合的なそうだんまどぐち相談窓口である「なるとしきかん鳴門市基幹相談支援センタ

きのもうー」の機能いてんを移転するとともに、たもくてきしつ多目的室などのかしかんきのもう貸館機能もそな備える

よてい予定です。

およバリアフリー及びユニバーサルデザインをふ踏まえて、しょう障がいのうむ有無や

ねんれい年齢にかんけい関係なく、だれ誰もがりよう利用しやすいしせつせいびインクルーシブな施設整備を

めざ目指しており、れいわ令和 7 年度秋のねんどあき開館に向け、かいかん施設のむ環境設備及び

かつどうびひん はいび おこな じゅんび すす  
活動備品の配備を行うなど、準備を進めてまいります。

つづ かつりよく し じぎょう  
続きまして、「活力あふれるまちづくり」に資する事業について、

せつめい  
ご説明させていただきます。

みらい じ ば さんびん ぞうしゆつ し えん じぎょう  
まずは、「未来の地場産品創出支援事業」についてであります。

ほんじぎょう きぎょう こじん じぎょうぬし あら じ ば さんびん かいはつ  
本事業は、企業や個人事業主による新たな地場産品の開発や

きぞん じ ば さんびん ぞうさんとう ひつよう しきん  
既存の地場産品の増産等のために必要となる資金について、ふるさ

のうぜい かつよう きふ つの きふがく  
と納税を活用したクラウドファンディングにより寄附を募り、寄附額の

いちぶ ほじょきん こうふ ぞうしゆつ じ ば さんびん へんれいひん  
一部を補助金として交付し、これにより創出した地場産品を返礼品

きふしゃ とど あたら のうぜい しゅほう  
として寄附者にお届けする、新しいふるさと納税の手法です。

へんれいひん みりよく きふ あつ かんげん きぎょう じちたい  
返礼品の魅力で寄附を集める「還元」と、企業や自治体を

おうえん かたち きふ ふた かんが かた く あ  
「応援」する形での寄附といった、二つの考え方を組み合わせたもの

へんれいひん みりよく きふ ゆうどう し く きふしゃ ちほう  
で、返礼品の魅力による寄附誘導の仕組みより、寄附者と地方のつ

つよ おお きょうかん めざ とりくみ  
ながりを強くし、より多くの共感をいただくことを目指した取組です。

じぎょうしゃ じぎょうしきん ふたんけいげん はんろかくだい  
事業者には、事業資金の負担軽減、販路拡大、クラウドファンディ

ングを通した市場ニーズの把握、寄附者には、地域の応援を通した

新たな返礼品の取得、そして、自治体には、地場製品の拡充などの

産業振興といった3者にメリットのあるものです。

こうした新たな手法による地場産品開発等にチャレンジし、寄附額

の拡充と地域活性化を推進してまいります。

次に、「U I」インターンシップ事業～おとなのおしごと体験～に

ついてであります。

本市では、「半農半X」「移住起業」をコンセプトに移住交流を

促進しております。また、その一方で、市内事業所における人手不足

は大きな経営課題となっております。

そこで、市内事業所の人手不足解消と本市へのU Iターンを

促進するため、「おてつたび」のプラットフォームにより全国から参加者を

募集し、U Iインターンシップを実施します。

参加者は 1週間の滞在期間中、市内4箇所の事業所で就業体

験を行うとともに、1日は本市の魅力を満喫する観光ツアーを開催す

る予定であり、受け入れ事業所は、医療・介護・保育を中心に、

製造業・サービス業など幅広い業種で実施できればと考えておりま  
す。

次に、「観光スタートアップ実証実験推進補助金」についてであります。

本市は、昨年12月に第2期観光振興計画を策定し、地域資源

を活かした観光のまちづくりに向けて、観光関連事業者等と連携し、

戦略的な魅力発信や新たな観光コンテンツの創造、受入環境の整

備などに取り組むこととしています。

そこで、革新的なアイデアや技術・サービスを持つスタートアップ企業

と市内観光関連事業者等が、協業して実施する、課題解決に向け

た事業を支援することで、観光振興を図ります。

つぎ のうりんすいさんぎょうしんこうききん そうせつ  
次に、「農林水産業振興基金の創設」についてであります。

ほんし れいわ ねん がつ なるとし のうぎょうしんこうけいかく およ  
本市では、令和4年3月に「鳴門市農業振興計画」及び

なるとしすいさんしんこうけいかく さくてい きかんさんぎょう のうぎょう すいさんぎょう  
「鳴門市水産振興計画」を策定し、基幹産業である農業、水産業

かか とりくみ すす  
に係る取組を進めております。

のうぎょう すいさんぎょう にな て ぶそく しせつ せつび ろうきゅうか  
農業・水産業ともに、「担い手の不足」や「施設、設備の老朽化

たいさく きんねん ぶつ か こうとう しざいこうにゆう かか ふたん ぞうか  
対策」、「近年の物価高騰による資材購入に係る負担の増加」など

おお か だい かか かいけつ とりくみ しんこう  
多くの課題を抱えており、その解決につながる取組をそれぞれの振興

けいかく そ すす  
計画に沿って進めているところでございます。

しんこうけいかく さら すいしん もくてき なるとしのうりんすいさんぎょうしんこう  
振興計画の更なる推進を目的として、「鳴門市農林水産業振興

ききん そうせつ とりくみ けいぞく じっし あんてい  
基金」を創設することにより、取組を継続して実施するための安定した

ざいげんかくほ はか  
財源確保を図るものでございます。

つぎ のうぎょうけいえいきばんきょうかしえんじぎょうほじょきん  
次に、「農業経営基盤強化支援事業補助金」についてであります。

ほんほじょきん あんていてき のうぎょうけいえい そくしん きばんきょうか はか  
本補助金は、安定的な農業経営を促進し、基盤強化を図ること

もくてき せいさんしゃそしき たい しえんせいど れいわ  
を目的として、生産者組織やJAに対する支援制度として、令和4

ねんど そうせつ  
年度に創設いたしました。

すうねん しない のうぎようしゃ のうぎようよう しざい きかいたう  
ここ数年、市内の農業者におきましては、農業用の資材や機械等  
かかくこうとう つづ いぜん きび けいえい つづ じょうきよう  
の価格高騰が続いており、依然として厳しい経営が続いている状況と  
なっております。

れいわ ねんど のうぎよう にな て たい し えんさく  
令和6年度からは、農業の担い手に対する支援策としまして、  
ほじょ たいしやう しない にんていのうぎようしゃおよ にんていしん きしゆうのうしゃ ついか  
補助の対象を「市内の認定農業者及び認定新規就農者」に追加・  
かくだい ほじょ じやうげん まんえん じぎよう じっし  
拡大し、1/2補助、上限50万円として事業を実施いたしました。

し えんじぎよう けいぞく ほじょけんすう かくだい じぎよう  
このたびは、この支援事業を継続、補助件数を拡大して事業を  
じっし  
実施するものでございます。

つぎ すいさんぎよう さんちしんこうほじょきん  
次に、「水産業ブランド産地振興補助金」についてであります。

しない ぎよぎようしゃ ちやうきか ぶっかこうとう えいきやう  
市内の漁業者においては、長期化する物価高騰の影響により、  
おお ぎよぎよう よう けいひ ぞうか じょうきよう  
大きく漁業に要する経費が増加している状況となっていることから、  
けいひ たい し えん おこな  
その経費に対する支援を行うものです。

市内の漁業者や漁業協同組合からは、「ワカメ養殖における

加工用の塩をはじめ、ロープやイカリなど、あらゆる資材の価格が高騰

しており、漁業経営を圧迫している状況にある」と伺っております。

このことから、漁業資材の購入経費に対する支援を行うことにより、

「鳴門わかめ」や「鳴門鯛」をはじめとした本市ブランド製品の産地の

維持、発展を図るものでございます。

具体的には、1経営体当たり1万円を上限として、漁業資材の

購入費用の2分の1を補助する制度としております。

次に、「地産地消推進補助金」についてであります。

なると金時やれんこん、鳴門わかめ、鳴門鯛をはじめとした農水

産物の消費拡大や、地域の特色ある食文化の継承を図るため、

地産地消の推進につながる取組に対し支援を行うものでございま

す。

補助の対象は、地産地消の推進につながるイベントの開催経費と

しており、50万円を上限として、対象経費の2分の1を補助する

せいど  
制度としております。

つぎ  
次に、「**インナープロモーション推進事業**」についてであります。

しみん  
インナープロモーションとは、市民のシビックプライドの醸成・市の魅力  
りょく きょうかん はぐく くち  
力への共感を育み、口コミやSNS等で鳴門市の魅力を市民自ら  
とう なるとし みりょく しみんみずか  
発信するなど、地域づくりを担う活動人口や定住人口の確保に繋げ  
はっしん ち いき にな かつどうじんこう ていじゅうじんこう かくほ つな  
る取組です。

じぎょう  
事業については、鳴門の未来を担う中学生、高校生と一緒に「ま  
ち」のコンテンツを作り上げることで、「まちづくり」や「市」との関わりを  
つく あ  
深めながら、スキル習得を目指す「0 → 1 スクール」の開催を行います。  
ふか しゅうとく めざ  
す。

れいわ ねんど ぐたいてき とりくみ  
令和7年度の具体的な取組については、鳴門で生まれ育った

ちゅうこうせい してん えいぞう かたちもち  
中高生の視点を映像という形を用いて、鳴門の魅力を今までにない

あたら かたち はっしん  
新しい形で発信する、期間限定の「映画館」を中高生と一緒に作り

あげることで、<sup>わかもの</sup>若者が<sup>かつやく</sup>チャレンジ・活躍できる「<sup>なると</sup>はじまりのまち 鳴門」と

しての<sup>きゃくほんづく</sup>シティプロモーション、<sup>さつえい</sup>脚本作りや<sup>えいぞうぎじゆつ</sup>撮影・映像技術の<sup>しゅうとく</sup>習得、S N

Sなどを<sup>かつよう</sup>活用した<sup>さくせい</sup>ショートムービーの作成、プロモーションのノウハウな

ど、<sup>ふだん</sup>普段、<sup>がっこう</sup>学校では<sup>まな</sup>学べない<sup>しゅうとく</sup>スキルの習得、そして、<sup>わかもの</sup>若者のシビックブ

ライドの<sup>じょうせい</sup>醸成・<sup>し</sup>市の<sup>みりよく</sup>魅力への<sup>きょうかん</sup>共感を<sup>はぐ</sup>育むなど、「<sup>す</sup>住み<sup>つづ</sup>続けたい」「<sup>もど</sup>また戻

ってきたい」と<sup>おも</sup>思うまちづくりに<sup>つな</sup>繋げてまいります。

次に、「<sup>すいしんじぎょう</sup>リノベーションまちづくり推進事業」についてであります。

リノベーションまちづくりとは、<sup>あ</sup>空き<sup>や</sup>家や<sup>あ</sup>空き<sup>ち</sup>地などの<sup>いま</sup>今ある<sup>ち</sup>地域<sup>いきしげん</sup>資源

を<sup>かつよう</sup>活用し、<sup>みんかんしゅうどう</sup>民間<sup>いんしよく</sup>主導で<sup>ぶっぽん</sup>飲食・<sup>あら</sup>物販などの<sup>あら</sup>新たな<sup>ぞうせい</sup>コンテンツの造成、

<sup>そうぎょう</sup>創業や<sup>さいせい</sup>コミュニティの<sup>おこな</sup>再生などを行う、「<sup>じんこうげんしょうじだい</sup>人口減少時代<sup>たいおう</sup>に対応したま

ちづくり」の<sup>しゅほう</sup>手法のことです。

<sup>せんしん</sup>先進事例では、この<sup>しゅほう</sup>手法を<sup>かつよう</sup>活用して<sup>あ</sup>空き<sup>や</sup>家を<sup>かつよう</sup>活用した<sup>かつよう</sup>コンテンツ

<sup>ぞうせい</sup>造成のほか、<sup>しみん</sup>市民の<sup>かんが</sup>考え方も<sup>かた</sup>リノベーションされ、<sup>じぎょう</sup>事業の<sup>たいしょうがい</sup>対象外エリ

アでの空き家の再生や空き地を活用した定期的な朝市の開催など、

自発的なまちづくり事業が複層的に展開されていることもあり、本取

組を通じて「鳴門のまち」を楽しむ人だけでなく、「鳴門のまちづくり」を

楽しむ人、いわゆる「活動人口」を増やしていきたいと考えています。

そこで、令和7年度については、「リノベーションまちづくり」の

実施可能性を検討するため、機運醸成や事業の理解促進を図る

「リノベーションまちづくり講演会」の実施、民間事業者へのヒアリングや

ワークショップ等による事業に興味のある民間人材の調査・発掘、

事業を実施するエリアの調査・検討などを実施します。

また、こうした可能性調査の結果を踏まえ、令和8年度以降、空

き家を活用した具体的な事業プランの企画を行う「リノベーションスク

ール」や、専門家による「事業化支援」の実施へと展開し、遊休不動

産を活用した事業化を目指してまいります。

次に、「公民連携エリアリノベーション応援事業」についてであります。

にぎ う だ さまざまな こう  
賑わいを生み出すポテンシャルのあるフィールドにおいて、様々な公

みんれんけい とりくみ すいしん みらい みす じぞくてき にぎ  
民連携による取組を推進することで、未来を見据えた持続的な賑わ

そうしゅつおよ か ち そうぞう はか  
い創出及び、エリア価値の創造を図ってまいります。

ぐたいてき む や がわしんすいこうえん なる とし やくしよちようしやしゅうへん  
具体的には、撫養川親水公園から鳴門市役所庁舎周辺までの

こうきょう こうみんれんけい じっしょうじっけん かんが れいわ  
公共エリアを公民連携の実証実験フィールドと考えており、令和 6

ねんど こんかつ さまざま  
年度には、マルシェをはじめ、ヨガイベントや婚活イベントなど、様々な

こうみんれんけい じっし  
公民連携イベントがこのエリアで実施されてきました。

れいわ ねんど とりくみ さら かそく あら び  
令和 7 年度には、これらの取組を更に加速させるため、新たに備

ひん か だ ほ じょきん こう ふ ぎょうせい いじょう  
品の貸し出しや補助金の交付など、行政としましてもこれまで以上に

せっきよくてき さら にぎ そうしゅつおよ か ち  
積極的なサポートをすることで、更なる賑わい創出及び、エリア価値

そうぞう つな  
の創造に繋げてまいります。

さいご つく じりつ し じぎょう  
最後に、「みんなで創る自立したまちづくり」に資する事業として、

なるとしはなかいどう ちいき かつどう ほじょじぎょう  
「鳴門市花街道・地域づくりネットワーク活動補助事業」について、

せつめい  
ご説明いたします。

ほんねん がつ かいさい おおさか かんさいばんぱく ともな かんこうきゃくぞう か  
本年4月から開催される大阪・関西万博に伴う観光客増加を

みす なるとしはなかいどう ちいき きょうどう はな う  
見据え、「鳴門市花街道・地域づくりネットワーク」と協働し、花植え

かつどう かくじゅう  
活動を拡充します。

じぎょう おおさか かんさいばんぱく あか あお しろ はな  
この事業では、大阪・関西万博をイメージした赤・青・白の花を、

しみん がくせい みな いっしょ しないかくしよ う  
市民や学生の皆さんと一緒に市内各所に植えるとともに、プランター

ばんぱく い ちょうふ ばんぱく きうん たか いろ  
などに万博ロゴ入りステッカーを貼付し万博の気運を高めるなど、色と

はな おとず ひと  
りどりの花で訪れる人をおもてなしします。

ほんじつ せつめい じぎょう いじょう あ はいふ  
本日もご説明する事業は以上でございますが、合わせて配布した

よさん がいようほんじつ せつめい いがい しゅよう じぎょう  
「予算の概要」に、本日もご説明したものの以外の主要な事業について

けいさい さんしゅう おも  
掲載しておりますので、ぜひご参照いただければと思います。

いじょう 以上で、<sup>れいわ</sup>令和<sup>ねんど</sup>7年度<sup>とうしょよさん</sup>当初予算(案)<sup>あん</sup>についての<sup>せつめい</sup>説明を

<sup>お</sup>終えさせていただきます。